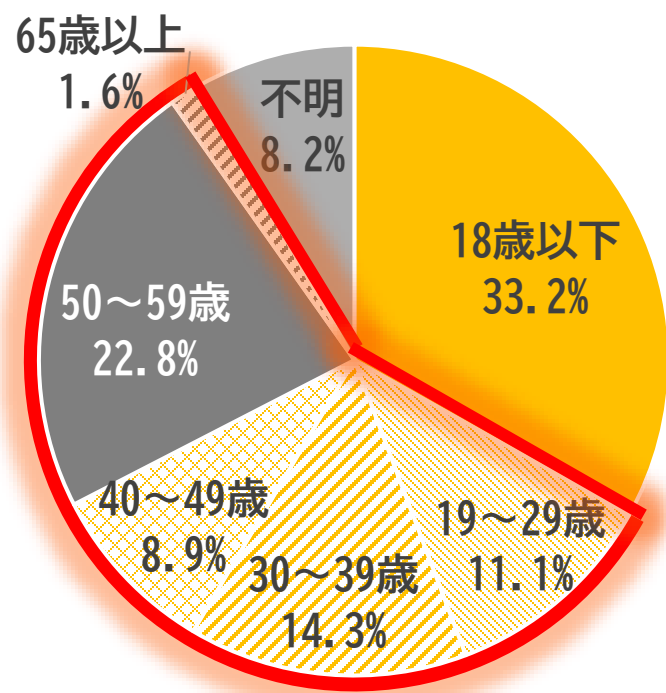


3 発達障がいのある人の実態把握

〔発達障がい者支援センター〕 資料3

相談者の年齢（発達支援）



相談者の58.6%が19歳以上

大学入学 就職 一人暮らし がきっかけ

- ▶ 生きづらさを感じる
- ▶ 人間関係、忘れ物が多い、朝起きられない、金銭トラブルなど

3 発達障がいのある人の実態把握

Q 現在、日常生活をしていく上で困っていること

日常生活を送るうえでの支援（食事、入浴、排せつ、掃除、洗濯など）

収入の有無

現金や預金通帳等の管理

災害、病気、事故等緊急時の対応

通学・通園、保育園・幼稚園や学校等での生活

健康管理、服薬管理

近所づきあい

銀行、郵便局、役所等の手続き

働く場、通う場などの有無

話し相手、相談相手の有無

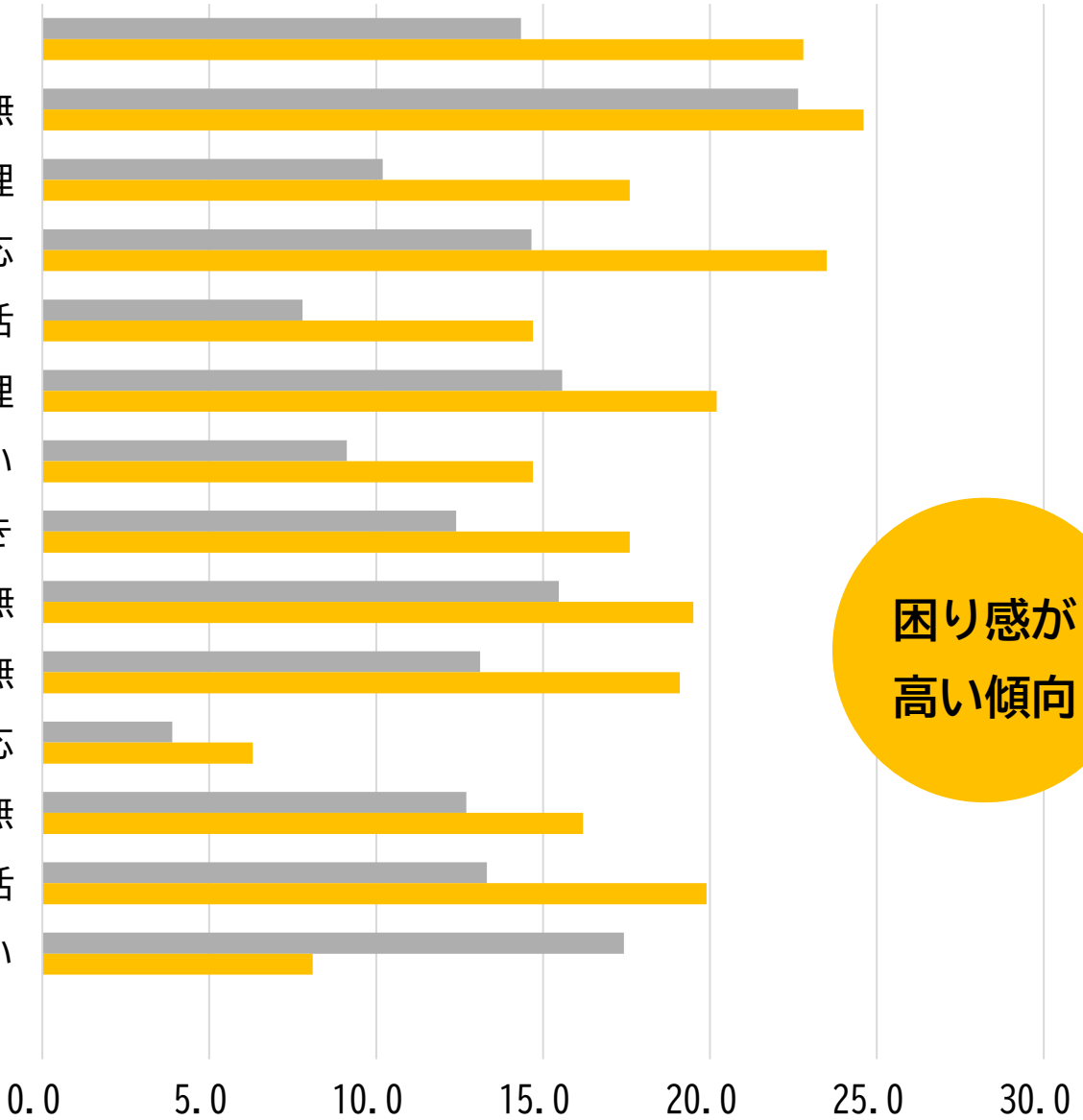
ヘルパー等サービスの利用、対応

趣味やいきがいの有無

親亡き後、高齢になった時の生活

特に困ること、不安に思うことはない

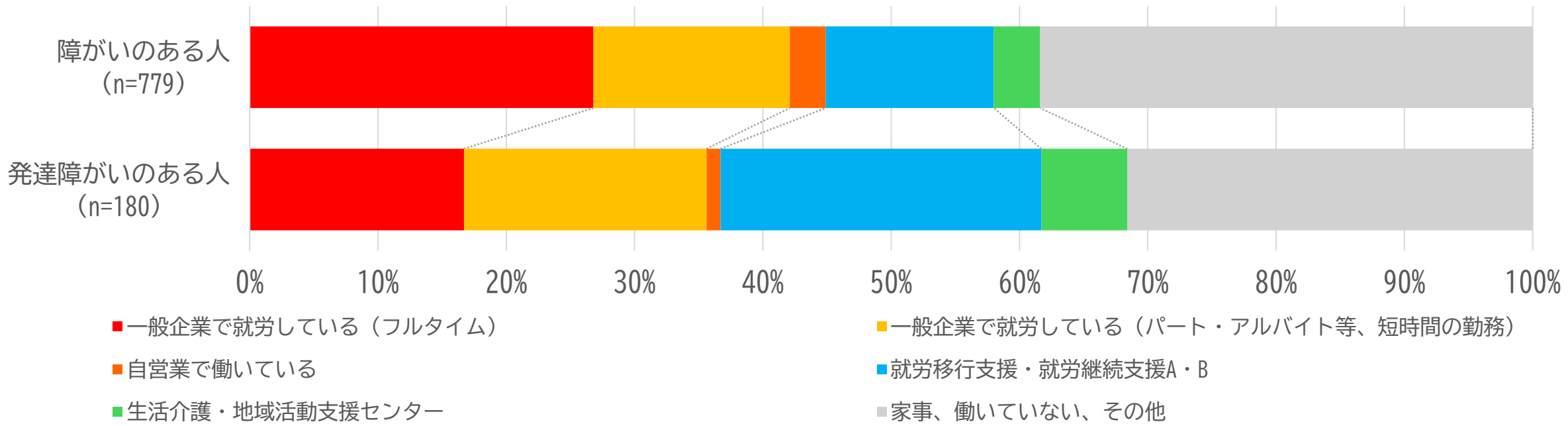
■障がいのある人 (n=976)
■発達障がいのある人 (n=272)



困り感が
高い傾向

3 発達障がいのある人の実態把握

Q 現在の仕事の状況



自由記載から

- マルチタスクやコミュニケーションが苦手な特性を理解されない。怠けていると誤解されたり、パワハラやいじめを受けたりする。
- 障がいをクローズして働くと、自分のキャパ以上の仕事量を求められて心身が潰れてしまい続かない。障がいをオープンにして働くと差別や偏見があり、主に人間関係が上手くいかず辞めてしまう。
- 外見からは障がいがあることがわからなかったため、周囲の目が厳しくなりがち。